



遮光器土偶(模造品) サングラスを付けている

再発見 ふるさと風土記

〔2〕 古代遺跡の「さとびあ」の岡

昭和28年、当時の上新城村は秋田市合併の話が決まり、急遽、中学校を新築する事になって、場所を学校の実習地だった松木台の岡にした。ところが、敷地整備が始まって驚いた。花咲翁さんの昔話もかくや、畑の中から「瓦やセト欠け」が大量に出てきた。

明日に秋田市合併を控え、新校舎の完成は一刻の猶予もならない。村は取り敢えず時の考古学の権威、秋田大学の半田市太郎教授に委細をゆだね、わずか遺構一画を残しただけで、突貫工事を進めた。

出土品の中の大きな目玉の土人形は、「遮光器土偶」と言って北の亀ヶ岡式。また、径三十センチほどの素焼き壺は、南の大木式だった。作られたのはおおよ三千年前、縄文後期と推定された。いずれにしてもこの「さとびあ」の建つ岡は、南下する北の文化と北上する南の文化がドッキングした、貴重な集落跡だったのである。

他に出羽の柵・秋田城の敷瓦らしく、墨書で秋田と残る磚(せん)の類いもあって、これら数々の出土品と遺構は、全容いまだ未解明ながら、日本考古学史上「上新城中学校遺跡群」として現在に至っている。

郷土史研究家 永田 賢之助

私のメモリー



何年経っても忘れられない

沢山の自然と優しい地域の人々に囲まれて育った上新城。その地域の瓦版に今回寄稿のお話をいただけて嬉しく思っています。中学校が閉校してから寂しく見えた校舎も、今は「さとびあ」として新たな交流の場に生まれ変わり、多くの人が利用してくれているようでとてもありがたく思います。それと同時に、来年小学校も閉校してしまうと聞き、思い出の場所がまた一つなくなってしまうことに、ただただ寂しい気持ちでいっぱいです。

思い返してみると、裸足で田んぼに入って田植えをした時の土の感触や植物で染物をしたこと、小学校の教室の窓から見た満開の桜、和楽器や民謡、民舞を多くの人の前で披露したこと、少ない部員で頑張った部活動、一人何役もこなして成功させた文化祭など、書き出せばきりがなくらい出てきてしまいます。少人数でしか経験できないこと、学べないことがここには沢山ありました。今在校している子どもたちも、この学び舎で過ごした日々を十年後、二十年後に楽しかったと思い出してくれますように。

佐藤 志保(上新城小学校 2004年度卒)

人、モノ、風景 上新城 の宝物

古代からの贈り物

5歳と3歳の息子は、今、恐竜に夢中です。恐竜のおもちゃを片手に、トリケラトプス!スピノサウルス!プレラドン!

白亜紀…ここはどんな様子だったのでしょうか。

上新城では縄文文化、弥生時代の遺跡の土器や石器が畑や山の中からたくさん出土しています。昔は、うちの畑からも矢じりや石斧、土偶のかけらがいくつか見つかったそうです。

「先人たちの生きた台地」は、祖父の口癖でした。荒れ地に鍬を振り下ろし、土器や石器を目にするたびに驚きや感動を見つけた若い日の祖父が目につかびます。海はどの辺りだったのか。豊かな森と水に恵まれた古代の人は、ここ上新城でどんな暮らしをしていたのでしょうか…。

私も小さい頃、夏休みになると祖父母のいる上新城で過ごしました。畑にはいろんなものがあり、田んぼのあぜには小さな虫がいて、花が咲いていました。

「先人たちの生きた台地」で令和の時代を生きる私たちは、ここ上新城でこれからどんな暮らしをしていくのでしょうか。

古代から祖父に届けられた驚きを、小さな私が見つけた感動をつないでいくことができるそんな場所が変わらず残っていること、遺してくれた先人たちがいることに感謝と敬意を込めて…今日も子供たちの恐竜遊びに付き合うのです(笑)

花工房 Field Canvas 石井 南





上新城版

さとぴあだより

11月



佐藤さんは、生まれも育ちも上新城。茅葺き屋根にトタンをかけた、古き良き時代を偲ばせる民家で、地域についてお話を聞かせてくれました。

そこに暮らす人々 vol.01 佐藤 一夫さん

— 昔の上新城の様子を教えてください。

60年前頃は各町内での庚申講こうしんこうが盛んでね。庚申かのえさるの日になると、当番の家に各家が一品ずつ料理を持ち寄って、神仏を拝んだら宴会が始まる。次の集まりが毎回楽しみでした。小学校には小又から歩いて行っていましたよ。雪が降ると、湯ノ里の優しいじっちゃんが踏み俵で道を作ってくれたり、家の先に炭焼き小屋があったので炭屋が朝早く窯に行くために靴を履いてきたりして助かっていたなあ。家の周りにあった池では観賞用の錦鯉を飼っていて、それが当時珍しく、低学年の秋の遠足はうちの池だったんですよ。

— 昔の様子が目に浮かぶようです。上新城で好きな場所はありますか？

小又の大滝ですね。若い時は仲間と漬物や酒を持ち寄って、ワイワイ楽しくやっていたもんです。あまり知られていないが、立派で良い滝ですよ。

— ふるさと先生としても地域に貢献されていますよね。

田植えや稲刈りを教えていました。上新城の子どもたちはみんな素直でね。秋の収穫感謝祭には毎年足を運んでいましたよ。来年閉校するというのはとても惜しいですね。

佐藤さん、貴重なお話をありがとうございました。



猟友会に所属していた佐藤さん(右側前から二人目)。写真は2004年に石名坂で捕獲した体重60kgの雌の熊。



上新城の地域文化を映像に遺そう

「上新城音頭を一緒に踊ろう会」

9月18日、ふるさと先生と「上新城音頭」を踊りました！

参加者の好評を得られたことで、今後、地域の方々の協力を得ながら、コロナ禍終息後の「上新城音頭祭り」の開催につなげられそうです。(ぜひとも、実現させたい！)

子ども、若者、年配者が集い、男女と一緒に踊れる「上新城音頭」は、地域の大切な「宝」として継承してほしいです。今回の催しの趣旨目的には多くの賛同が得られました。今後、地域住民の方々と相談し協力しながら、この音頭が上新城地区に根付いていくよう呼び掛けていきます。

また、「心とカラダの健康づくり、の一環としてとらえながら、農閑期の憩いの場の提供、人と人がつながる地域づくりのきっかけになればと考えます。



「さとぴあ」センター長 渡辺 知



斉藤 ミヨ子 さん(左)

ふるさと先生として20年以上、上新城音頭を教えています。子どもたちは素直で、一生懸命に踊ってくれるので嬉しいです。

三浦 エツコ さん(中央)

町内の名前や地名、昔懐かしい言葉が入った歌詞に惚れ込んで踊っています。地域の文化を伝えるものですから、なくしたくないですね。

渡辺 静代 さん(右)

地域の運動会を含め様々な場で踊ってきました。旅行のバスの中で歌うことも。これからもずっと残ってほしいと心から思っています。

11月の講座一覧

- 11/6 土 縄文オープンラボ(石器づくり体験)
- 11/12 金 リンゴで生キャラメルを作ろう
- 11/14 日 秋田民謡を唄う覚える講座(初心者向、4回シリーズの1回目)
- 11/17 火 新蕎麦・そば打ち体験

- 11/24 水 あゆかわのぼるの秋田弁で楽しむ川柳講座(3回シリーズの2回目)
- 11/26 金 歴史懇話会「遺跡からみた秋田の中世」

ヒストリー「思い出の上新城中学校」資料展

コレクション「荻須高德リトグラフ展」

開催中です！

期間 12月26日(日)まで
時間 10:00~18:00

入場無料

「上新城さとぴあだより・ふるさと瓦版」は、上新城地区の瓦版です。次号の配布は、新年1月6日・7日の予定です。地区の皆さんにお知らせしたい情報がありましたら、「さとぴあ」までお寄せください。

